

日時： 2018 年 1 月 28 日（日）

場所： 教育学部 4 号館 3 階 306 教室

講師： 野村文夫（千葉大学医学部付属病院遺伝子診療部特任教授）・宇津野恵美（千葉大学附属病院遺伝子診療部認定遺伝カウンセラー）・糸賀栄（千葉大学附属病院検査部副技師長）・井上陽子（神奈川県立高浜高等学校教諭）

プログラム： 次世代才能スキップアップ プログラム 基礎力養成講座 特別講座

講座名「考えよう!! 遺伝子診断」

受講生数：17 名、職員 1 名、見学者 3 名（高校教員 1 名、元大学教授 1 名、新聞記者 1 名、）

【講座の流れなど】

- ① 各講師による講義（遺伝子関連検査の実際と疾患、遺伝子診断と遺伝学、妊娠・出産と出生前検査）
- ② ケーススタディ及びロールプレイ（1 件）、受講生によるグループ討論及び全体発表・質疑応答
- ③ 講師による総括
- ④ 受講生によるアンケート、確認テストの記述

【講座内容】

1 回目に行われた *SOX2* 遺伝子解析実験の復習及びヒトの *SOX2* 遺伝子疾患と実際の遺伝子診断のプロセスについての講義（千葉大学医学部付属病院の臨床検査技師）の後に、医師による「遺伝子診断と遺伝学」、認定遺伝カウンセラーによる「妊娠・出産のライフプランになぜ遺伝学的検査が登場したか」の講義が行われた。次に、治療法が見つからない脊髄小脳変性症（神経難病）のケーススタディを用いて、生徒にロールプレイを体験して貰い、自身であれば遺伝子診断を受けるかどうかについて、グループ討論・発表を行った。それにより、正解のない課題を生徒全員で科学的に考察し、多様な考え方があることを正しく認識した。また、治療法のない疾患であっても遺伝子診断を受ける意義についても全員で考えた。

【受講生の様子】

高校の授業では聞くことができない講師の話は、生徒にとっては新鮮でまた、説明も解りやすかったようで、生徒は興味深く講義を聞いていた。特に実際に生徒が患者役になったロールプレイ実習では、参加者全員が真剣に考え、それに続くグループ討論では、生徒同士の学びを通して考え方の幅が広がったことがアンケートにより判明した。生徒の感想からは、「遺伝子について様々な技術やしぐみを知ることができ、大変、満足できる内容だった。遺伝子診断や出生前診断について患者の体験や動画などを踏まえて深く考えることができ、認識が大きく変わった。」「患者の本音を聞いて、自分の中でも様々な葛藤があったり、家族の中でも問題が起きたりしていたことを知ることができ、有意義だった。」など肯定的な意見が多数確認された。

